



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
FAX:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 懐かしさ・いとしさこそ

### 我を真実に導く仏縁です

八月はお盆の季節、皆さんそれぞれに先立たれたご先祖やいとしい人を偲び、仏法に遇う季節ですね。懐かしさやいとしさは、私どもを真実の世界、仏様の「あなたを救わずにおれない」というまことのみ声に導かれる大切な心情だと思われます。

最近、相次いで八十代の懐かしい方々の葬儀をお勤めさせていただきました。そして、その中陰法要にお伺いすると、ご家族をはじめお参りの方々が一緒に去り行きし故人の後姿を心から偲んでおられる雰囲気を感じます。寂しさの中に何かしらほっとする安らぎさえ漂ってくるのです。

「この安らぎの情感はどこから由来するのだろうか?」と思いつつ、ふと思いつくのが、「余韻」あるいは「余情」という言葉です。『広辞苑』で「余韻」を調べると、「音の消えた後まで残るひびき。転じて言外の趣。余情」となっています。さらに、「余情」を調べると、ある行為や表現の目に見えない背後に、なお深く感じられる風情。行為や表現のあとに残る、しんみりとした美的印象。言外の情趣」と解説されています。余韻も余

情も同じく言外の趣であり、長く後に残る響きなのだと思います。

これらの方々に共通する点は、人生の節目、節目において逃げることなく、真剣に、丁寧に向き合い、努めて乗り越えて行かれたということ。過日点字翻訳の表彰式会場で倒れ、帰らぬ人となられたIさんは、その情感を若き頃からたしなまれた俳句に詠まれました。先年出版された『俳句集』を開きますと、奥様の入院中の句がありました。

夏の月妻の病室出づるとき

入院中の奥様を見舞って気遣いながら、ふと窓外の美しい月に心慰められたのではないかと、この方のやさしい心の動きが伝わってきます。次の句は、奥さんの病氣も快癒し、めでたく仏前金婚式を私どものお寺で挙げられた日に詠まれました。

金婚式挙ぐる菩提寺菊日和

「ホテルで派手に祝いをする代わりに、お寺で感謝の気持ちを表したい」というこの方の麗しい気持ちに響いてきます。残された俳句集は突然の別れを惜しむ家族や親戚の人たちにとって、余韻を



懐かしむ何よりの心の糧になりました。小生もこの佳節を共感できたことを有難い仏縁と味わっています。

広大な如来様の真実心は、我々人間に完全に分かるものではありません。だからこそ、苦楽を共にする中で実感できる有難さ、いとしさこそ、お浄土に連なる仲間たる共感の情を呼ぶ仏縁になるでしょう。人生における出会いを大切に、丁寧に人生を歩みたい、仏縁を重ねたいものです。



(下写真)7月2日 ↓  
第5回名古屋別院音楽祭  
三重組コーラス54名の熱唱



(左写真)7月4日  
善正寺のキッズサンガ  
三十五年の歴史!  
新しいお友達も  
入って賑やか



## ☆行事ご案内☆

永代経:8月22(土)午後1時半・夜7時半

23(日)午後1時半、※お経開きは22(土)10時半

講師 足利孝之先生 (兵庫県、前全国布教同志会会長)

### ♪三重組コーラス♪

※8/11(火)午前10時半・陽光苑お誕生会慰問31回目!

※8/29(土)夜7時半、小杉練習2009「御堂演奏会」楽譜

### ◇キッズサンガ

8/8(土)午後4時お経、ゲーム、紙芝居など。

※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもつけます!年中無休です  
ご褒美ガム、飴が大人気。放課後は境内や卓球場が子供の遊び場

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

### 予告※小杉町仏教会、長寿会、三全仏婦主催「追悼法要」

9月20日(日)午前10時(物故者)・午後1時(戦没者)

講師:石川欣也先生(奈良)

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索OK新着情報や『住職と坊守のつれづれ日記』おススメ!ほぼ毎日更新!アクセス9000回達成。8/13で開設1周年、何でもお気軽に相談を!即返信



### 坊守スケッチ

## 葬儀は「絆」確認の場

最近何度か黒い礼服を着て、葬儀に参列することが多くなった。寺という特殊事情もあるが、跡取りの嫁の立場になると、親戚の義理事にも招かれることが多い。

先日あるご門徒さんの通夜、葬儀にお参りした。通夜の席で住職が、故人の「金婚式記念参拝」のエピソードを紹介した。その時に、過去の善正寺だよりに掲載した記念写真と記事をコピーしてお配りした。仕事の面しかお付き合ひの無かった人には、初めて接する故人の一面だろう。ただ単にお経を上げて、マニュアル化したお通夜で終わるならば、あまり印象に残らなかったが、参列した人々も一様に故人の人となりと接することが出来た。本来のお通夜というものは、夜通し故人の思い出を語り合う「夜伽の場」であった。それがいつの間にか、形式的なお勤めだけで終わるようになった。葬儀の場も手伝いの人も全て、業者任せになつてしまった。悲しみを誘う音楽に乗せた司会者の実に巧妙な声の調子。職業柄とはいえ敬意を表したくなる。

落語で『お悔やみ』という演題があつて、悲しみの時にはタダ一言「何と申し上げてよろしいやら。」後は首を縦に振るか、横に振るかで済ますというネタだ。お悔やみの場では、下手な慰め言葉は届かず、決まりきつた言

葉の方が落ち着くらしい。しかし「悲しみに寄り添う姿勢」がなければ、どんな言葉も空しい。

遺族に次々と言葉をかける参列者の顔ぶれを見て、葬儀は自分の信仰が何であれ、先ず関係性を優先する「絆を確認する場である」と実感した。

冠婚葬祭の場でしか会わない親戚、昔の職場の同僚、定年後の趣味仲間、地域ボランティアの仲間、近所の人々など多種多様。人は自分ひとりで生きてきたように思うが、決して一人ではない。こんなにも沢山の人々に囲まれ支えられて、生きてきたのだということとを、遺族にも知らしめた。

葬儀の後で、初七日から四十九日まで七日毎にお勤めする中陰法要。これは親類縁者が遺族と共に寄り添って悲しみを癒す「グリーフケア」の一環なのだ。忙しい現代人には、一連の葬儀・儀式は面倒なものに映るかも知れないが、「儀礼が持つ力」は測り知れない。あるお年寄りが「おめでたい事と葬式の義理を欠かしたら、一人前ではない」と言われた。「誰にも世話になりたくないし、世話もしたくない」と言う孤独な現代人が多いが、歳を取って死を目前にした時、淋しく冷たい人が溢れる社会になるのではないだろうか？仕事を休み、遠くから駆けつけて、故人の最期をお見送りすること



は、お金では買えない「自分自身を鍛える大切な仕事だ」と私は思う。

### ☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆直ぐに八十 動くこと好き

歌も好き 心はいつも 春気分

☆医者青く 成るとう噂

☆茄子は 果菜の王者 吾の朝餉に

四日市市 釈 弘蓮

(川村寿法氏の一人芝居を目閉し聞いて、仏法に触れた感動を詠む)

☆生きてゆく スピード 落として 観る心

四日市市 釈 恩厚

(名古屋別院の音楽祭に参加して)

☆バスに乗り 弥陀に届けと 元氣よく

☆蓮華持ち 意気揚々と 胸を張る

### ♪三重組コーラス♪

☆八月十一日(火)午前 陽光苑慰問

☆八月二十九日(土)夜七時半 練習

2009 御堂演奏会の歌6曲

※原則として毎月最終土曜日の夜練習

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇八月八日(土) 午後四時より

お経・ゲーム・紙芝居。お友達誘って来てね！夕方五時の鐘撞きは毎日。

☆カンバ有難う☆

富田和代様・村田すみ子名様、矢田たず様・柴田美津代様・他匿名様多数より切手、お志有難うございました。

お悔やみ申し上げます★

★服部四一様(川原町)・八十九歳・七月二日(火) 合掌

★伊藤孝一様(伊倉)八十四才・七月十二日(火) 合掌

### ☆ホットニュース☆

☆七月二日別院音楽祭には三重組コーラス五十三名が参加され、蓮華の花を持って喜び溢れる歌を披露し好評。

☆七月二十七日より始まる三重組連研に服部雅之氏・館司朗氏・絁子氏夫妻・館靖男氏・純子氏夫妻五名参加

☆善正寺のホームページが公開！仏事に関する相談、お悩み等気軽に。「三重善正寺」で検索可。

※「住職と坊守のつれづれ日記」がおススメ、好評！ほぼ毎日更新。おかげさまで開設十一か月、七月末でアクセス数が九千回を突破！今までお寺と縁がなかった方や若者、子供の訪問に感謝。

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第一八八号をお届けします。◇この夏は総選挙フリーパーで殊に暑く、騒がしい(失礼!)一カ月になることだろう。◇戦前・戦中・戦後の苦難の歴史を語る人が希少価値となった今日、亡き人々の悲嘆や願いを思い出し、語り継ぐ夏でありたいと切に思う。

◇時折、世の喧騒から離れて静かに仏前に座して静かに我がいのちの行方を見つめる時をもつことを心がけたい。一人々々の背後や縁の下に無数の願いが宿っていることを思えば、いつしか心穏やかにされるのではないだろうか。



夏休みの本番です。毎日境内で遊ぶ子供達の声が聞えます。5時の鐘撞きに来る子、卓球をした来る子達です。檀家の子とか小杉町の子という一定条件をつけずに開放しているので、家も親の顔も知らない子供が大勢います。無条件は自由でいいように思われますが、無責任にもなります。こちらがしっかり管理しないと泣けてくることばかり。また貸しをして最後の子が電気のフタを放し、窓の開け放し、トイレの汚し放し、ゴミの捨て放し等、クダのものは何をしてでも平気という感覚です。「果たしてこれがモズサンがなのか？」と自問自答しています。しかし先日嬉しいことがありました。ほんの一握りの子供ですが自発的に境内を掃除し、夕方5時の鐘撞きに私の帰宅が間に合わなかったため、「5時になったので自分達で鐘を叩きました」と名前入りで教名の子供が手紙を入れてくれました。郵便受けてそれを見つけた時、今まで悶々としていた苦勞が帳消しになりました。今月で還暦を迎える私、寺に嫁いで35年、娘時代よりも10年も長く人生を歩んできたことになりました。これも皆様方の応援、支え、お育てのおかげと感謝しています。誕生日が来ると満一周年を迎える「善正寺のホームページ」特に住職と坊守のつれづれ日記は毎日更新し、アクセス数が一万回に達しようとしています。今後とも気楽にお立寄り下さい。8月22日(土)23日(日)永代経、講師は足利孝之先生(兵庫)。暑い時ですがクララと冷茶を用意と皆様の参考諸をお待ち申し上げます。合掌

平成二十一年八月 善正寺坊守拝